

HIROSE-HOSP. 2004

ひろせほすび

『看護部の理念』

- ・看護職員が誇りをもって看護を実践し、責任ある行動がとれるよう質の向上に努める

～看護目標～

クリニカルパスの充実を図り患者様個々のニーズに応じた看護を展開する。



看護師長
藤本 美紀

『薬剤部の理念』

- ・薬剤師としての職務の遂行
薬剤師としての職務の遂行に万全を期すこと。
- ・薬事の専門家としての業務と責任
管理者が薬事に関する義務を果たす上で薬事の専門家の立場から積極的に協力する義務と責任を負うこと。
- ・チーム医療と患者様への良質かつ適切な医療提供
医師をはじめ他の医療関係者とチーム医療を通じて患者様に良質かつ適切な医療を提供するよう努めること。



薬剤部長
木村 朋代

『リハビリ部の理念』

- ・インフォームドコンセント
患者様に治療方針を十分説明し、理解を得た上で治療に取り組めます。
- ・プライバシーの保護
業務上知り得た情報についての秘密を厳守します。
- ・チーム医療
他職種との連携を築きチーム医療の一員として務めます。
リハビリスタッフとして、常に知識・技術の向上を目指します。
- ・患者様中心のリハビリサービスの提供
患者様に合った、患者様ペースの対応をします。
コミュニケーションを大切に信頼関係の保持と人権の尊重に務めます。



理学療法士
大塚 宏司

『栄養部の理念』

- ・医学的管理のもと栄養学的観点から、疾病の治癒促進・健康の回復に努めます。
- ・他の職種と連携し、患者様の病態に応じて食事のサポートをします。
- ・家庭的な料理を大切にし、食環境の整備と変化をもたせたメニューを提供します。
衛生的で安全な食事を提供します。



管理栄養士
松木佐知子

《対談》

司会：第2回「患者様対談」として、今回は、「リウマチに対する人工関節置換術」をテーマに取り上げました。

どうぞよろしくお願いたします。では、院長先生からM様のご紹介をお願いします。

院長：M様は、約20年前にリウマチを発症し、十分な薬物療法を受けることがないままに、いろいろな関節が変形、破壊されてしまった方です。最近になって両膝関節の痛みがきつく、歩けなくなってトイレも人の手を借りるようになってしまいました。しかし、今回、両膝の人工関節置換術を受けられ、歩けるようになり、今はいろいろな動作が可能となった、という患者様です。

司会：入院当時の状況はどんな感じでしたか？

M様：まず、立てなかつたし、何も出来なかつたのです。ここへ来て、どうにか立てるようになりたかつたのです。欲を言えば、歩けるように、トイレに行けるようになりたかつたのです。

司会：リウマチはいつ頃発症したのですか？

M様：20年くらい前ですね。私は、手袋を縫う仕事をしていましたが、仕事を辞めてから少しずつ手の関節動かなくなりました。小指から手の変形が始まり、アツと言う間に変形が進んでしまいました。足の方は、両膝とも徐々にコツコツと音が鳴り出したんです。平成12年にはそれでも歩き回れたのですが、平成14年の冬になって動けなくなってしまうと、平成15年の春にこちらに入院したのです。入院する際まで、接骨院に行ったりしていました。

司会：そういった経緯で当院に入院されたわけですが、医師より手術をすすめられた時に、手術に対する不安はありましたか？

M様：初めは、なかなか覚悟ができなかつたのですが、自分の膝のレントゲンを見たときに手術をしなければいけないと思ったのです。そりゃあ手術に対する不安はありましたよ。でも、看護婦さんたちに励まされ、自信がつかしました。

M様：手術の翌日、先生が病室に来られて、手術した膝を曲げましたよね。曲げる時に痛かつたのですが、膝のすべりが良くて、膝がバリバリと音がしなかつたのです。何回か曲げるうちにスムーズに曲がるようになりました。それが本当に嬉しかつたです。その時に反対の膝も手術することを決心しました。

司会：手術した時に歩けるようになると思いましたか？

M様：手術した時は、まだわからなかつたです。しかし、リハビリで理学療法士さんの導きもあつて不安もありながらですが、徐々に立って歩けるようになったのです。初めて立てれた時は、ものすごく嬉しかつたです。また、初めて歩けたときも、ものすごく嬉しかつたです。まさか歩けるようにまでなるなんて。こんなに人工関節っていいものかと思ひましたね。

司会：手術後、いろいろと出来ることが増えましたか？

M様：この10月頃になっていろいろと出来ることが増えてきました。何よりも嬉しいのは、自分でトイレに行けるようになったことです。トイレに行けるって最高です。トイレに行けると思うと、水分も遠慮なくとれますしね。お茶も自分で入れられるようになりましたし、文字も書けるようになったのです。長いこと文字を書いてなかつたのですが、書けるようになりました。全てが良い方向に向いているように思えます。知り合いからも、「最近、表情が良くなつた」とよく言われるのです。

院長：歩けるようになって自信がつき、膝以外の面でも積極的にリハビリに取り組むことができるようになったのかもしれないね。

患者様の中には、「手術したら悪くなる」「歩けなくなる」「怖い」と思っておられる方も多いようですが…。

M様：私がすすめてあげますよ。手術して本当に良かったですから。



【人工膝関節】

医学の進歩にともなって最近では高齢の方が多くなっていますが、リウマチや変形性関節症などによって関節の痛みや破壊が著しく、歩くのもままならないといった方も増えてきています。人工関節は、薬や注射、リハビリや装具などの治療にもかかわらず、痛みが強くて日常生活に支障がある方にとっては、考慮してみるべき治療法でしょう。術後数日以内に立つことが可能となり、入院期間は通常3～4週間です。



(手術後のレントゲン写真：左膝)



～患者様サービス委員会より～

当院では、患者様・ご家族の方々のご意見・要望・苦情をお聴きする手続きの一つに意見箱を一階・三階・四階の電話台の三カ所に設置しております。昨年、受動喫煙（たばこから流れる煙を周囲の方も吸ってしまう）の公共施設での防止を明記した健康増進法が施行されました。そこで当院も日本医療機能評価機構の指導を受け、受動喫煙を防止する為、『病院内全館禁煙』と

なり、病院の外（アズーリ入口横）に喫煙室を設けました。愛煙家の皆様方には、ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

今後も皆様に満足していただけるよう、より良い環境・医療サービスが提供出来るよう努力してまいります。

『私のカルテ』

当院では、入院患者様の診療記録の一部を『私のカルテ』というファイルの中に入れて病状や検査結果、治療方法について情報提供を行っています。また、入院中の経過について患者様と私たち医療スタッフとの間で治療日記をつけ、[交換日記ですね(^o^)]納得と満足のいく医療サービスを受けていただくというのが目的です。日記をつけることで、ご自分の病状について理解が深まったり、私たち医療スタッフにとってもいろいろな発見や反省の材料になることも多いようです。でも、書かなければいけないということではありません。あまり固く考えずにご自由にお使い下さい。(〇.〇)

皆様の『私のカルテ』です。ご退院のときには、どうぞお持ち帰りください。

皆様が、一日も早くもっと良くなりますようお祈りいたしております。

広瀬病院スタッフ一同



平成 15 年 9 月より、勤務させていただいている整形外科の『菅田吉昭』です。現在、金曜日の午前・午後に来外等で診察に携わっています。専門は『脊椎脊髄外来』で、大学病院では頸随症や腰椎椎間板ヘルニアなどの手術を含めた治療、研究を行っています。趣味は野球をはじめとしたスポーツ全般で、野球は大学医局のチームと大学野球のOBチームで強打(?)の外野手として頑張っています。患者様の症状改善のために、元気良く頑張っていきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

菅田 吉昭

医療法人社団研宣会

専門性を生かした

患者様中心の医療と看護

広瀬病院

〒760-0079 高松市松縄町 35-3

Phone:087-867-9911 (代)

FAX:087-867-9988

ホームページ <http://www.hirose-hosp.or.jp>

Email info@hirose-hosp.or.jp